

第3分科会 『高齢障がい者の社会参加とは』

「いつまでも働きたい」という思いを持つ高齢期の利用者は少なくありません。それは多くの利用者にとって「職場」や「日中活動の場」は自分の居場所であり、人から必要とされ、人の役に立ち、人との関係を築くことのできる場所であるからではないでしょうか。高齢期を迎えた利用者が、昔のように働けなくなり、自分自身の老いを受け止めながら日中をどう過ごしていくのかは、各事業所の大きな課題となっています。

この分科会では「高齢利用者の社会参加」に視点をあて、利用者自らが地域や住民と繋がり、地域の中で自分自身の存在意義を見つけていく、小さな事でも必要とし必要とされ、心が豊かになる、そんな社会参加を実践している事業所から実践報告を頂き、高齢利用者の社会生活支援について議論します。

全体進行 (社福)伊達コスモス21 ふみだす 所長 廣澤佐起子 氏

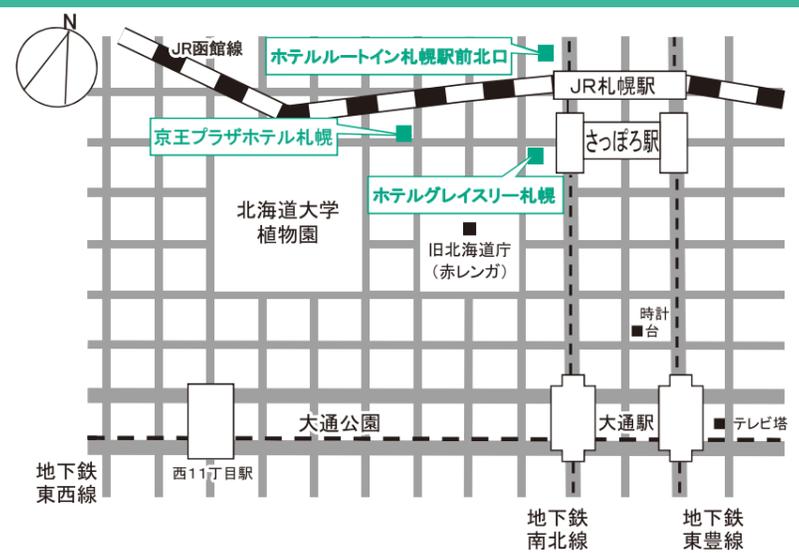
9:00~9:05 日程・企画趣旨説明

9:05~10:10 講演 「高齢知的障がい者支援の実際」
 講師 (独法) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 総務企画局事業企画部部長 古川 慎治 氏

10:10~10:30 休憩

10:30~11:50 実践報告「高齢障がい者の社会参加と社会生活支援」
 ① (社福)大府福祉会 ひだまり 施設長 杉原健一郎 氏
 ② (社福)侑愛会 星が丘寮 施設長 中野伊知郎 氏

11:50~12:00 まとめ・終了



会場案内図・アクセス

大会会場・懇親会会場

京王プラザホテル札幌
 住所 札幌市中央区北5条西7丁目
 電話 011-271-0111

宿泊先案内

- 記号A 京王プラザホテル札幌
 住所 札幌市中央区北5条西7丁目
 電話 011-271-0111
- 記号B ホテルグレイスリー札幌
 住所 札幌市中央区北4条西4-1
 電話 011-251-3211
- 記号C ホテルルートイン札幌駅前北口
 住所 札幌市中央区北7条西4-2
 電話 011-727-2111

大会に関するお問い合わせ先(大会事務局)

一般社団法人北海道知的障がい福祉協会 (担当/菰・東海林)
 〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2.7 電話 011-271-0228 FAX 011-271-4202

大会申込・宿泊に関するお問い合わせ先

近畿日本ツーリスト 札幌法人旅行支店 (担当/大桃・北)
 〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西2丁目2-1 電話 011-251-0011 FAX 011-251-3630

日中活動支援部会全国大会
 北海道大会開催要綱

2019年度

テーマ

～生活介護事業の目的を総括し、新たに
 “支援の質の向上”への一歩を踏み出そう～

日中活動支援において、生活介護事業所は既に1万か所を越え約28万人が利用しています(平成31年3月国保連データ)。生活介護事業は「介護」をベースとした生活維持の事業として理解されている傾向もありますが、日中活動支援部会では「社会参加の機会の保障」が重要な事業目的の柱ではないかと議論を重ねてきた経過があります。

一方、次期障害福祉サービス等報酬改定検討チームへの申し送りである「サービスの質を報酬体系へ反映させる手法等を検討する」という事項を受け、平成29・30年度厚生労働科学研究費補助金障害者研究事業において、「障害者の福祉的就労・日中活動サービスの質の向上のための研究」が国立のぞみの園を中心に行われました。その研究成果として各生活介護事業所が自らの事業を振り返るためのツールとして「自己点検チェックのためのガイドライン案」及び「自己点検チェックリスト案」が作成され厚生労働省及び国立のぞみの園のホームページに公表されました。このガイドライン案の中で、日中活動支援部会が議論してきた「社会参加の機会の保障」が生活介護事業の目的の一つとして、基本的役割の項に記述されました。このことは、専門的な介助や専門的支援を行いながら生活介護事業が何を目指しているのか整理されたと言えます。このような中で生活介護事業はこれまでの歩みを一度振り返り、総括しながら、次の一歩を踏み出すべきではないでしょうか。

今年度の研修会では、1日目に基調報告、上記研究報告、講演で生活介護事業の事業目的を共有化し、その支援の質と評価尺度について皆さんと考え、2日目には多様化する利用者への専門的支援スキルの追求を行い、支援の質の向上に繋げる新たな一歩を踏み出す研修会とします。

- 主催 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 日中活動支援部会
 一般社団法人 北海道知的障がい福祉協会
- 開催日 2019年12月10日(火)・11日(水)
- 会場 京王プラザホテル札幌
 (札幌市中央区北5条西7丁目) 電話 011-271-0111
- 参加対象 日中活動支援事業所及び関連事業所等の管理者・職員・関係者等
- 参加費 研修会費 12,000円(会員)・15,000円(一般)
 懇親会費 9,000円
- 定員 600名(定員になり次第締切)

1日目

受付 [京王プラザホテル札幌 2階 ホワイエ]

12:10
~13:00

開会式 [京王プラザホテル札幌 2階 エミネンスホール]

13:00
~13:15

基調報告★

『総括・生活介護事業~この事業の羅針盤に代えて』

13:15
~14:00公益財団法人日本知的障害者福祉協会日中活動支援部会 部長
森下 浩明

研究報告★

『自己点検チェックのためのガイドライン案』

14:00
~15:05独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
総務企画局研究部研究課 研究員
岡田 裕樹 氏

休憩

15:05
~15:30

講演★

『改めて日中活動を問う、支援の質とは何か』

15:30
~17:00埼玉県立大学社会福祉子ども学科 教授
朝日 雅也 氏

終了

17:00

懇親会 [京王プラザホテル札幌 2階 エミネンスホール]

18:00
~20:00

2日目

第1分科会 『社会参加を目指す自閉症支援とは』

障がいの重い人たちの成人期の支援は、介護という視点だけではなく、その人らしい社会生活を送る支援に大きく舵を切るべきと考えます。

この分科会では、自閉症スペクトラムの人たちに対して有効な支援である「構造化」の手法を用い、障がいが重くともそれぞれの「自立」を目指してきた自閉症支援のエキスパートである講師と、その実践に先駆的に取り組んできた事業所の方に登壇いただき、講演と実践報告を通して「社会参加に導く自閉症支援のあり方」、「日中活動支援が向かうべき未来とは何か」を学びます。

全体進行 (社福)侑愛会 ワークセンターほくと 施設長 小黒 康廣 氏

9:00~9:05 日程・企画趣旨説明

9:05~10:10 講演「自閉症支援が目指す社会生活への支援とは~実践を通して~」
講師 (NPO)自閉症eサービス 代表 中山 清司 氏

10:10~10:30 休憩

10:30~11:30 実践報告

- ①「重い障がいがあっても働く」
(社福)横浜やまびこの里 ポルト能見台 主任 佐藤 仕展 氏
- ②「生活介護の生産活動~コロッケ製造から地域への繋がり~」
(社福)北摂杉の子会 ジョブサイトよど 主任 倉窪 明子 氏

11:30~12:00 ディスカッション・まとめ
コメンテーター (NPO)自閉症eサービス 代表 中山 清司 氏

第2分科会 『重度重複障がいのある人の社会生活支援とは』

「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」の名称にあるように、生活介護事業を実施する個々の事業所が提供する支援サービスでは日常生活の支援に留まらず、社会参加への視点を踏まえた「社会生活支援」への取り組みが重要且つ不可欠だと考えます。重度重複障がいのある利用者が、その人らしく地域社会と繋がり生きることを目指すうえで、日中活動には重要な役割と使命があるはずですが。この分科会では、重度重複障がいのある利用者の具体的な「社会参加」「社会生活支援」について討議し確認します。

全体進行 (社福)朔風 つくし 施設長 大沼 真哉 氏

9:00~9:05 日程・企画趣旨説明

9:05~10:10 講演「重い障がいのある人の生活支援を実践から考える」
講師 (社福)札幌緑花会 松泉グループ 支援部長 高谷 直秀 氏

10:10~10:30 休憩

10:30~11:50 実践報告「重い障がいのある人の社会参加と社会生活支援」
① (社福)つどいの家 仙台つどいの家 管理者 山口 収 氏
② (社福)伊達コスモス21 ふみだす 主任 川上 里美 氏

11:50~12:00 まとめ・終了